鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（40）

国分・隼人テクノポリス地域
埋蔵文化財分布調査報告書

昭和６１年度

１９８７年３月

鹿児島県教育委員会

序　　文

姶良地区の埋蔵文化財については，昭和36年度に全県的な遺跡分布調査の一環として，遺跡分布調査を行ったところですが，「国分隼人テクノポリス計画」の発表もあって，より詳細な分布状況の把握が必要となってきました。

鹿児島県教育委員会では，こうした事情を考慮して，昭和59年度から３か年計画でテクノポリス計画地区の埋蔵文化財分布調査を開始し，最終年度の本年度は，姶良西部地区と鹿児島地区の一部（加治木町・姶良町・蒲生町・吉田町・鹿児島市吉野町）について実施しました。

この地区は，古くから政治・経済・文化等の面で栄えた地区として注目されていまして，その調査結果が待たれているところでありました。

本書をこの地域の文化財保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに，この調査に御協力をいただいた関係市町教育委員会並びに関係者の皆さんに深く感謝いたします。

昭和６２年３月

鹿児島県教育委員会

教育長　山　田　克　穂

例　言

1．本報告書は，昭和61年度に実施した国分・隼人テクノポリス地域埋蔵文化財分布調査の報告書である。

2．調査の組織は経過のなかで記した。

3．本書の執筆は次の通りで，編集は吉永・冨田が分担して行った。

　第1章，第2章1～2節……吉永

　第2章3～5節……冨田

4．遺物の実測，写真等は執筆者が分担して行った。

5．本書に用いた遺物番号は，通し番号を付した。挿図・図版の番号は一致する。

6．別図市町村別遺跡分布図には，昭和59年度に作成した市町村別遺跡分布地図に加筆して示している。したがって周知の遺跡については「鹿児島県市町村別遺跡地名表」を参照されたい。

7．鹿児島市については，市で独自に分布調査を実施しているので，今回は未調査地域のうち市北東部について実施した。

目　　次

序　文
例　言
第１章　調査の経過 …… 7
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 7
　第２節　調査の組織 …… 7
　第３節　調査の経過 …… 8
第２章　各市町管内の分布調査 …… 9
　第１節　加治木町管内の分布調査 …… 9
　第２節　姶良町管内の分布調査 …… 14
　第３節　蒲生町管内の分布調査 …… 20
　第４節　吉田町管内の分布調査 …… 25
　第５節　鹿児島管内の分布調査 …… 32

表　目　次

第１表　加治木町管内の遺跡一覧 …… 13
第２表　姶良町管内の遺跡一覧 …… 19
第３表　蒲生町管内の遺跡一覧 …… 24
第４表　吉田町管内の遺跡一覧 …… 29
第５表　鹿児島管内の遺跡一覧 …… 37

挿図目次

第１図　加治木町管内遺跡の採集遺物（土器） …… 10
第２図　加治木町管内遺跡の採集遺物（石器） …… 11
第３図　姶良町管内遺跡の採集遺物（土器１） …… 15
第４図　姶良町管内遺跡の採集遺物（土器２） …… 16
第５図　姶良町管内遺跡の採集遺物（石器） …… 17
第６図　蒲生町管内遺跡の採集遺物（土器） …… 21
第７図　蒲生町管内遺跡の採集遺跡（石器） …… 23
第８図　吉田町管内遺跡の採集遺物（土器） …… 27
第９図　吉田町管内遺跡の採集遺物（石器） …… 27
第10図　吉田町立吉田中学校収蔵資料（土器） …… 30
第11図　吉田町立吉田中学校収蔵資料（石器） …… 31

第12図　鹿児島市笹内遺跡の採集遺物（土器１）……34
第13図　鹿児島市笹内遺跡の採集遺物（土器２）……35

図　版　目　次

図版１　加治木町下市来原遺跡（上）、楠原遺跡（下）……39
図版２　加治木町笹内の採集遺物……40
図版３　姶良町城ヶ崎遺跡（上）、春花遺跡（下）……41
図版４　姶良町川畑遺跡（上）、平松原遺跡（下）……42
図版５　姶良町笹内の採集遺物（１）……43
図版６　姶良町笹内の採集遺物（２）、蒲生町笹内遺跡……44
図版７　蒲生町剣御前・三池原遺跡（上）、高牧第１遺跡……45
図版８　蒲生町笹内の採集遺物……46
図版９　吉田町北平野遺跡（上）、中原遺跡（下）……47
図版10　吉田町崎山・落ノ上遺跡（上）、吉田町笹内の採集遺物（下）……48
図版11　吉田南中学校収蔵の遺物（１）……49
図版12　吉田南中学校収蔵の遺物（２）……50
図版13　吉田南中学校収蔵の遺物（３）……51
図版14　鹿児島市拾間原遺跡（上）、石郷遺跡（下）……52
図版15　鹿児島市笹内北部の採集遺物……53

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

昭和57年３月に「通商産業政策のあり方」に関する産業構造審議会の答申が行われ，昭和58年７月に施行された「テクノポリス法（高度技術工業集積地開発促進法）」により，本県では鹿児島市を母都市とし，国分・隼人地区を中心とした２市12町が指定地区となった。

テクノポリス計画対象地域となった姶良地区では，昭和36年度に「鹿児島県遺跡分布調査」の一環として分布調査が全域で実施されていたが，その後も多くの遺跡が農業基盤整備事業等に伴う分布調査で発見され，又，九州縦貫自動車道建設の際事前に発掘調査の実施された遺跡も少なくない。

そこで，県教育委員会ではテクノポリス開発構想の事前推進と文化財保護との調和を図るため，事前に２市12町の全域を対象とした埋蔵文化財分布調査を昭和59年度から３か年計画で実施することとした。

調査にあたっては，文化庁全国遺跡分布調査要項（庁保記94号昭和46年４月22日）に準拠し国庫補助を得て，埋蔵文化財を中心に悉皆調査を基本とした分布調査を実施した。

本年度は，加治木町，姶良町，蒲生町，吉田町，鹿児島市の１市４町を対象地区とし，昭和61年５月12日から昭和61年６月20日までの５週間実施し，新しい遺跡の発見に努めた。

第２節　調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育長	山田　克穂
調査責任者	〃	文化課長	桑原　一廣
	〃	文化課長補佐	川畑　栄造
	〃	文化課　主　幹	中村　文夫
調査企画	〃	〃　主任文化財研究員 兼埋蔵文化財係長	立園　多賀生
調査員	〃	〃　文化財研究員	吉永　正史
	〃	〃　文化財研究員	冨田　逸郎
調査事務	〃	〃　企画助成係長	浜松　巌
	〃	〃　主　査	京田　秀允
	〃	〃　主　事	川畑　由起子

第3節　調査の経過

調査の経過は，日誌抄により以下略述する。

5月12日　分布調査の開始。借り上げ車の受取及び諸道具の準備。
　　加治木町管内の分布調査開始。加治木町楠元地区の調査。
5月13日　加治木町藤野，石野，市来原，東川内地区の調査。
5月14日　加治木町本土原，徳永地区の調査。
5月15日　加治木町丸岡，隈原，永原，菖蒲谷，嶽，雛場地区の調査。
5月16日　加治木町桃木野，辺川，市来原，城地区の調査。
5月19日　姶良町管内の分布調査開始。
　　姶良町木場，岩井田地区の調査。
5月20日　姶良町内甑，岩井田，北山，宮脇，馬場地区の調査。
5月21日　姶良町三船地区の調査。
5月22日　姶良町船津，三拾町，西餅田地区の調査。
5月23日　姶良町西ノ妻，建昌地区の調査。
5月24日　姶良町平松地区の調査。
5月26日　蒲生町管内の分布調査開始。
　　蒲生町漆地区の調査。
5月27日　蒲生町上久徳，下久徳地区の調査。
5月28日　蒲生町高牧，松生，西浦地区の調査。
5月30日　蒲生町上久徳，米丸，漆地区の調査。
6月2日　吉田町管内の分布調査開始。
　　吉田町西佐多浦，本名地区の調査。
6月3日　吉田町大原地区の調査。
6月4日　吉田町西佐多浦地区の調査。
6月5日　吉田町吉水，平野地区の調査。
6月6日　吉田町牟礼ケ丘地区の調査。
6月9日　鹿児島市管内の分布調査開始。
　　鹿児島市石郷，上原地区の調査。
6月10日　鹿児島市七社，東菖蒲谷地区の調査。
6月11日　鹿児島市吉野，西菖蒲谷地区の調査。
6月12日　鹿児島市東菖蒲谷，西菖蒲谷地区の調査。
6月13日　鹿児島市丸岡，川上，野呂迫地区の調査。
6月14日　昭和61年度テクノポリス計画地域内の分布調査を終了する。
　　諸道具等の後始末。借り上げ車の返却。

6月9日から重富収蔵庫にて整理作業及び報告書作成作業を行う。

第２章　各市町管内の分布調査

第１節　加治木町管内の分布調査

加治木町の分布調査は，昭和61年５月12日から５月16日まで実施した。

加治木町は県のほぼ中央部に位置し，東は隼人町，溝辺町，北は溝辺町，西は姶良町に接し，南は鹿児島湾に面している。馬蹄形状の盆地を呈する南部と，シラス台地の山間部となる北部とに大別される。河川は，町の北東部から中央部へと南西流する網掛川，東部に源を発し南流して鹿児島湾に注ぐ日本山川がある。また，南西端には別府川があり，姶良町と境界をなしている。

町内の遺跡は，「鹿児島県市町村別遺跡地名表」によると，縄文時代の遺跡１０，弥生時代の遺跡１０，古墳時代の遺跡１０，が知られている。また，昭和１２年に発掘調査され縄文時代の遺物を出土した日本山洞穴，九州縦貫自動車道建設に伴って発掘調査され多量の塞ノ神Ｂ式土器を出土した三代遺跡等が知られている。

今回の分布調査の結果，新たに16の遺跡が確認されたり，周知の遺跡の中で点から面へと広がりを確認できた。

１　上岳遺跡

加治木町大字辺川字上岳にあり，加治木町の北部の上嶽地と下嶽地区区の中間部に位置する。遺跡は標高約 240 m の舌状台地の基部にある。

遺物は，土師器，チャート片を採集した。

２　木原遺跡

加治木町大字辺川字木原にあり，加治木町北部の市野地区の西側の台地上に位置し，上岳遺跡の東南約 400 m のところにある。遺跡の東側は急崖をなし，網掛川の支流字曽木川が南流している。標高は約 240 m を測る舌状台地の基部にあたる。

遺物は，縄文式土器（塞ノ神Ｂ式），成川式土器，叩き石片，石斧片を採集した。１は塞ノ神Ｂ式の頸部片である。貝殻刺突文と貝殻沈線文の組合せである。

３　東木迫遺跡

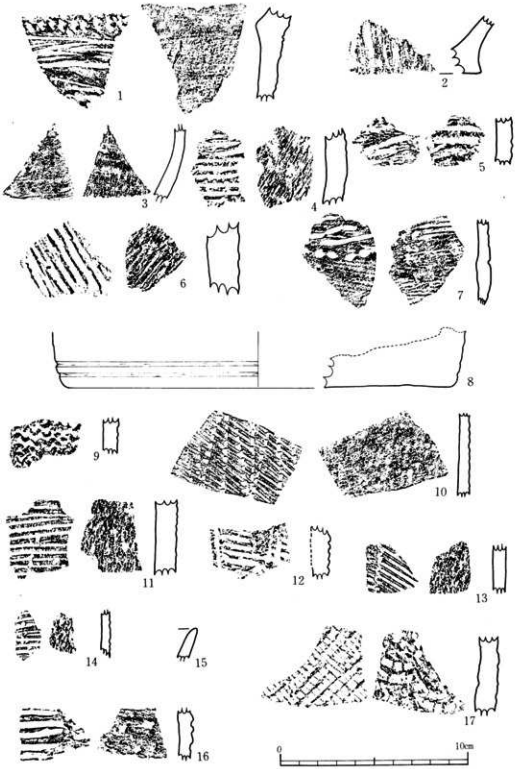
加治木町大字小山田字東木迫にあり，東木地区の西約 600 m の台地上に位置する。当台地の北側においては大部分が圃場整備が行なわれており，遺跡の北への広がりは確認できなかった。

遺物は，縄文土器片を採集した。２は縄文時代後期に属すると考えられる底部片である。縦位の貝殻条痕がみられる。

４　流松遺跡

加治木町大字小山田字流松にあり，東木集落の西側の台地上にある。東木迫遺跡とは山一つ隔てた東側にある。東木地区の舌状台地の基部に位置する。

遺物は，成川式土器片を採集した。



第1図　加治木町管内遺跡の採集遺物

5　上中原遺跡

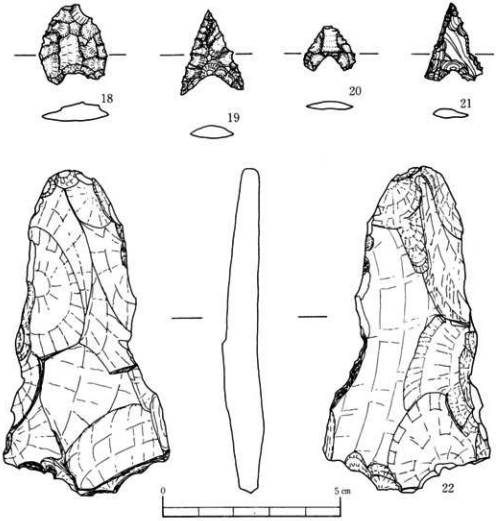
加治木町大字小山田字上中原にあり，石野集落の東約 400 m に位置している。標高約 210 m の舌状に延びた台地上にある。

遺物は，成川式土器片，土師器片，須恵器片を採集した。3はハケ目調整を施した須恵器片である。

6　中原遺跡

加治木町大字小山田字中原にあり，上中原遺跡とは小谷を狭んで対峙している。遺跡の東南側には鹿児島国際ゴルフ場が広がっている。

遺物は，縄文式土器片，成川式土器片，土師器片を採集した。



第 2 図　加治木町管内遺跡の採集遺物（石器）

7　笹原遺跡

加治木町大字小山田字笹原にあり，加治木町の東北部の溝辺町と接する，市来原集落の北北西約300mのところに位置する。山地の傾斜地に開こんされている平坦部分に存在する。

遺物は，縄文式土器（石坂式系統土器），土師器片，石鏃，黒曜石片，チャート片を採集した。4～6は貝殻条痕文を施すもので，石坂式系統のものであろう。7は凹線と連点文とを組み合せたもので縄文時代後期に属すと考えられる。8は底部片でやや厚手のものである。底部近くに横位の貝殻条痕文を施している。石坂式系統の土器と考えられる。18は頁岩質，19はチャート質，20は黒曜石，21は砂岩質の石鏃である。

8　高峠遺跡

加治木町大字小山田字高峠にあり，市来原集落の南西約500mの舌状に延びる台地上にある。一部畑地造成の進んでいる部分の断面部に包含層が確認された。

遺物は，縄文式土器（前平式土器・押型文土器，貝殻条痕文土器片）を採集した。9は山形押型文の土器片である。10～13は斜行する条痕文に縦位の連点文を重ねたものである。

9　下市来原遺跡

加治木町大字小山田字下市来原，中原にあり，市来原集落の台地が南へ延びる標高約230mのところに位置している。遺跡の南東部は谷がありその東を網掛川の支流崎森川が南流している。

遺物は，縄文式土器（前平式土器）を採集した。14は前平式土器で，横位の条痕文に縦位の連点文を重ねるものである。器壁はやや薄い。

10　上ノ原遺跡

加治木町大字小山田字上ノ原にあり，川内集落と迫集落との間にある台地上に位置する。市来原地区の台地が南西部へ延びる端部にあたり，遺跡の南は鞍部状となっている。東側は急崖となっており，崎森川が南流している。

遺物は，土師器の小片を採集した。

11　前牟田遺跡

加治木町大字西別府字前牟田・新開・穂定にあり，加治木町の西部の桑迫集落の北側に広がる台地上に位置する。

遺物は，土師器片，成川式土器片を採集した。

12　前原遺跡

加治木町大字西別府字前原にあり，加治木町立永原小学校の南側台地に位置する。遺跡は北へ緩傾斜する果樹園地内である。

遺物は，土師器片を採集した。15は土師器碗の口縁部片である。

13　鎮ノ下遺跡

加治木町大字西別府字鎮ノ下にあり，桃木野地区の小台地上に位置する。

遺物は，土師器片，成川式土器片を採集した。

14　丸岡遺跡

加治木町大字西別府字丸岡，汐井川，下原にあり，丸岡地区に広がる台地上に位置する。遺跡の南側では，網掛川によって形成された沖積地（加治木平野）が一望できる。標高は約150mで，沖積地との比高差は140mを測る。

遺物は，土師器片，成川式土器片を採集した。

15　草水遺跡

加治木町大字木田字草水にあり，加治木町の南西部の姶良町との町境を流れる別府川に面した標高約10mの沖積地で，弥勒地区の南側に位置する。

遺物は，土師器の小片をやや多く採集した。

16　楠原遺跡

加治木町大字日木山字楠原にあり，加治木町の東南部の楠原地区の周囲の台地上に位置しており，南は隼人町と接している。町境以南は急崖となっている。この遺跡は「鹿児島県市町村別遺跡地名表」の52－1（楠原遺跡），52－6（楠原遺跡）の周辺をとり囲むもので，点から面への広がりとしてとらえられたものである。当遺跡の北側は圃場整備がすでに行われている。

遺物は，縄文式土器(曽畑式)，成川式土器片，土師器片，須恵器片，石斧，石鏃片，黒曜石片，チャート片を採集した。16は曽畑式土器片で沈線文を施している。17は須恵器片で外面に格子叩き目，内面に同心円叩き目を残す。22は打製石斧片と考えられるものである。

第1表　加治木町管内の遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	上岳	加治木町大字辺川小字上岳	縄文・歴史	土師器・チャート	
2	木原	〃　〃　木原	縄文・古墳	縄文式土器(塞ノ神式) 成川式土器・叩石片	
3	東木迫	〃　大字小山田小字東木迫	縄文	縄文式土器（後期？）	
4	流松	〃　〃　流松	古墳	成川式土器	
5	上中原	〃　〃　上中原	古墳～歴史	成川式土器・土師器 須恵器	
6	中原	〃　〃　中原	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器	
7	笹原	〃　〃　笹原	縄文・歴史	縄文式土器（石坂式） 土師器・石鏃・黒曜石 チャート	
8	高峠	〃　〃　高峠	縄文	縄文式土器（押型文・ 前平式・貝殻条痕文）	
9	下市来原	〃　〃　下市来原	縄文	縄文式土器（前平式）	

10	上ノ原	加治木町大字小山田小字上ノ原	歴史	土師器	
11	前牟田	〃　西別府　前牟田・新開 穂定	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
12	前原	〃　〃　前原	歴史	土師器	
13	鍋ノ下	鍋〃　〃　鍋ノ下	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
14	丸岡	〃　〃　丸岡・下原 汐井川	〃	〃　〃	
15	草水	〃　大字木田　小字草水	歴史	土師器	
16	楠原	〃　大字日木山小字楠原	縄文 古墳～歴史	縄文式土器（曽畑式） 成川式土器・土師器・ 須恵器・石鏃片	（楠原）52－1 （楠原）52－6

（注）備考欄は遺跡の範囲内に存在する周知の遺跡と遺跡番号である。

第2節　給良町管内の分布調査

給良町の分布調査は，昭和61年5月19日から5月24日まで実施した。

給良町は県のほぼ中央部に位置し，東は加治木町・溝辺町，北は横川町，西は薩摩郡郡答院町・蒲生町，南西部で吉田町，南は鹿児島市と接し，東南部は鹿児島湾に面する南北に細長い町域をもつ。別府川と思川によって形成された南部の沖積平地と北部の山地に大別される。町の半分以上が山林となっており北部の中央を別府川に合流する山田川が南流している。南部の低地は鹿児島市のベッドタウン化してきており，開発が急速に進んでいる。

町内の遺跡は，「鹿児島県市町村別遺跡地名表」によると，縄文時代の遺跡11，弥生時代の遺跡6，古墳時代の遺跡7等が知られている。昭和14年の鍋倉洞窟，昭和21年の木野遺跡，昭和26年の竪野遺跡，昭和28年の稲荷遺跡，昭和34年の船津遺跡，昭和35年の鍋谷遺跡，昭和36年の上場遺跡，昭和39年の山田正田院遺跡等の学術調査の他，近年は九州縦貫自動車道建設に伴う小瀬戸遺跡，住宅団地建設に伴う昭和51年の南宮島遺跡，昭和53～55年の3回にわたる荻原遺跡の調査など開発に伴う事前調査も増加している。

今回の分布調査の結果，新たに15の遺跡が確認されたり，周知の遺跡の中で点から面へと広がりを確認できたものが数ケ所あった。

1　内甑遺跡

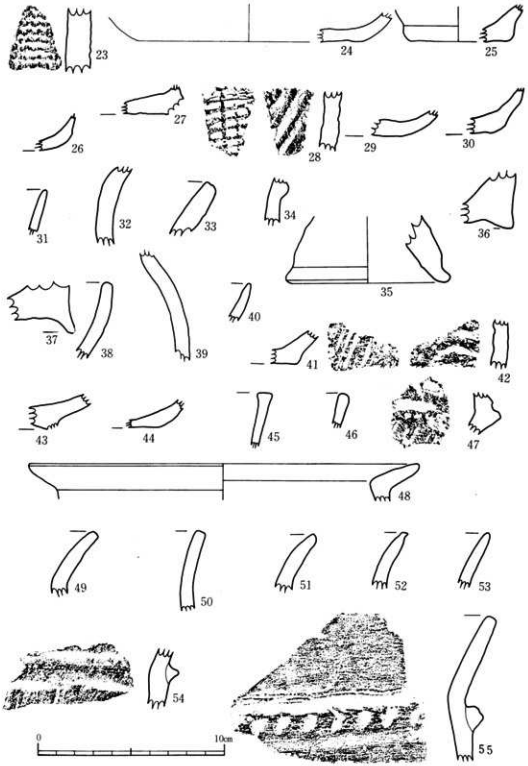
給良町大字北山字内甑にあり，給良町の北部内甑地区の開析谷に舌状に張り出した台地上に位置する。

遺物は，縄文式土器片を採集する。23は山形の押型文土器片である。器壁はやや厚い。

2　北山遺跡

給良町大字北山字北山，七ツ島にあり，宮脇集落の西約500mに位置する。遺跡は北西方向に緩傾斜する斜面地にあって，標高約250mにある。

遺物は，ピエスエスキーユを採集した。63は黒曜石製のピエスエスキーユである。



第3図　始良町管内遺跡の採集遺物（土器1）

3　白木田遺跡

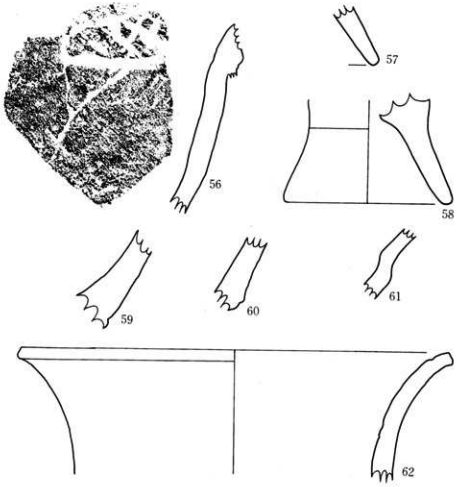
姶良町大字北山字白木田にあり，馬場地区の集落間に位置する。標高約230mを測る，山麓の台地上にある。

遺物は，成川式土器片，土師器を採集した。24は土師器の底部片である。底部はヘラ切りであり，焼成はやや硬質である。

4　城ケ崎遺跡

姶良町大字船津字城ケ崎にあり，姶良町立三船小学校の南約300mの，蒲生川の形成した自然堤防の右岸側に位置する。標高は約10mである。この地は中世の城ケ崎墓に比定されている。

遺物は，成川式土器，土師器，須恵器，白磁のそれぞれ破片を採集した。25～28は土師器の底部である。25・26は底部が張り出す器形，27・28は底部が張り出さない器形を呈している。



第4図　姶良町管内遺跡の採集遺物(土器2)

29は須恵器片で外面が格子目叩き，内面平行線叩き目を残すものである。

5　川畑遺跡

姶良町大字船津字川畑，三反田，郷屋，迫田，下龍毛，小丸にあり，城ケ崎遺跡の蒲生川をはさんだ対岸の自然堤防上に位置する。

遺物は，成川式土器片，土師器片，青磁片を採集した。30は土師器の底部片である。31は暗緑色を呈する青磁の口縁部片で，外面にはシャープな連弁文が印刻されている。

6　春花（ハルヒ）遺跡

姶良町大字船津字春花，一丁畠，小尻掛にあり，川畑遺跡の蛇行する蒲生川の，南側の対岸の台地上に位置する。この遺跡付近のみ微高地となっていて畑地として利用されているが，周囲は低地で水田地帯である。やや密に散布しており，集落遺跡としての可能性をもつ。

遺物は，成川式土器片，土師器片を採集した。32・33は甕形土器の口縁部片，34は甕形土器の頸部片で刻み突帯を付す。35～37は甕形土器の底部片で，36・37はやや脚の低いものである。38は鉢形土器の口縁部片，39は壺形土器の肩部片である。40は土師器の口縁部片である。

7　二俣遺跡

姶良町大字船津字二俣にあり，春花地区の南部の山裾部に位置する。

遺物は，成川式土器片，土師器片を採集した。

8　外園遺跡

姶良町大字鍋倉字外園，油田，脇園，福人にあり，別府川に注ぐ山田川の形成した沖積地に面する三拾町地区の集落内に位置する。遺物は集落内に散在する畑地に散布している。

遺物は，成川式土器，土師器，須恵器，染付片を採集した。41は糸切底の土師器片である。42は須恵器片で，外面が平行叩き目，内面が円心円叩き目を残す。

9　諏訪前遺跡（亀泉院廃寺跡）

姶良町大字鍋倉字諏訪前，小宇都にあり，宇都御屋地（帖佐館跡）の北約600ｍの亀泉院廃寺跡（53－28）の周辺に位置し，古石塔もいくつか残存している。

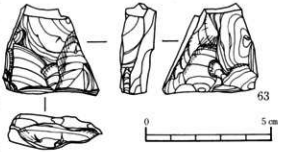
遺物は，土師器片を採集した。

10　稲荷脇遺跡

姶良町大字鍋倉字稲荷脇，房屋敷，本屋敷にあり，古帖佐焼窯跡周辺の畑地に位置する。字名から中世～近世の集落址も予想される。

遺物は，成川式土器片，土師器片，チャート片を採集した。43は土師器の底部片である。

付近は宅地化が進んでおり，遺物は集落内に散在する畑地からのみである。



第５図　姶良町管内遺跡の採集遺物

11　町口遺跡

姶良町大字鍋倉字町口にあり，昭和14年に発掘調査された鍋倉洞窟の東に広がる小台地上にある。鍋倉洞窟に関連する遺物等の採集はできなかったが，可能性は高いと考えられる。

遺物は，成川式土器片，土師器片を採集した。44は土師器の底部片である。底部はヘラ切りである。

12　上場遺跡

姶良町大字西餅田字羽迫にあり，別府川右岸にある帖佐中学校の南側微高地上にある。遺跡は昭和36年11月に発掘調査が行われており，点から面への広がりを確認できた。調査の際に弥生時代中期の完形品が出土したといわれるが，遺物は実見できなかった。

遺物は，土師器片と青磁片を採集した。45は青磁の直口の灰緑色を呈する口縁部片である。外面は２本の横線が除刻されている。

13　東道丁原遺跡

姶良町大字西餅田字東道丁原，西道丁原，上八日町，願成寺，願成寺内にあり，別府川右岸の十日町地区の微高地に位置する。遺跡は，願成寺跡を含む地域である。今でも墓地として利用され，寺に関する字名を残す。

遺物は，土師器片，染付片を採集した。46は口唇部がかまぼこ状となった土師器片である。

14　西之妻遺跡

姶良町大字西餅田字西之妻，瀬戸原，椿ノ下，柏木，下田中，上田中，山野にあり，西之妻地区の微高地全体が遺跡となる。周知の西之妻遺跡（53－４）が点から面へと広がったのを確認したものであり，昭和51年に発掘調査された南宮島遺跡はこの遺跡の南西端部にあたる。

遺物は，宅地の間に散在する畑地から，縄文式土器（市来式土器），成川式土器片，土師器片，黒曜石片を採集した。47は市来式土器の口縁部近くの破片である。

15　平松原遺跡

姶良町大字平松字平松原，西中原，後迫，竪野，原口原，京田原にあり，県立保養院の西側に広がる微高台地に位置する。遺跡内に，昭和26年に発掘調査された竪野遺跡や保養院遺跡を含み，広い広がりが確認された。

遺物は，竪野遺跡（53－11）を中心として広範囲から，弥生式土器，成川式土器，土師器の破片を多く採集した。

48は口縁部が「く」字状を呈する甕形土器の口縁部片で，弥生時代中期頃のものと考えられる。49～53は甕形土器の口縁部片である。54～56は甕形土器の頸部片で突帯をもつものである。突帯は55が斜位の，56が格子状の刻みが付いたものである。57・58は甕形土器の脚部片，59・60が壺形土器の底部片である。61は高坏形土器の脚部片である。62は壺形土器の口縁部片である。

第2表　始良町管内の遺跡一覧

No	遺跡名	所　在　地	時　代	遺　物	備　考
1	内　瓶	始良町大字北山字内瓶	縄文	縄文式土器（押型文）	
2	北　山	〃　〃　字北山，七ツ島	〃	ピエスエスキーユ	
3	白木田	〃　〃　字白木田	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
4	城ケ崎	〃　大字船津字城ケ崎	〃	〃　〃 須恵器・白磁	
5	川　畑	〃　〃　字川畑・郷屋 迫田・小丸・三反田・下龍毛	〃	成川式土器・土師器 青磁	
6	春　花	〃　〃　字春花・一丁畠 字小尻掛	〃	成川式土器・土師器	
7	二　俣	〃　〃　字二俣	〃	〃　〃	
8	外　園	〃　大字鍋倉字外園・神田　油 脇園・福入	〃	〃　〃 須恵器・染付	
9	諏訪前	〃　〃　字諏訪前・小字都	〃	土師器	
10	稲荷脇	〃　〃　字稲荷脇・本屋敷 房屋敷	〃	成川式土器・土師器 チャート	
11	町　口	〃　〃　字町口	〃	成川式土器・土師器	
12	上　場	〃　大字西餅田字羽迫	歴史・(弥生)	土師器・青磁 (弥生式土器)	(昭和36年調査) 53－13
13	東道丁原	〃　〃　字東道丁原・願成寺 西道丁原・上八日町 願成寺内	歴史	土師器，染付	
14	西ノ妻	〃　〃　字西ノ妻・瀬戸原 栫ノ下・柏木・山野 下田中・上田中	縄文 古墳～歴史	縄文式土器（市来式） 成川式・土師器，黒曜石	(西ノ妻)53－4
15	平松原	〃　大字平松字平松原・西中原 後迫・竪野・原口原 京田原	弥生～歴史	弥生式土器・土師器・ 成川式土器	(竪野) 53－11 (保養院)53－9

注－備考欄は遺跡の範囲内に存在する周知の遺跡の遺跡名と遺跡番号である。

第3節　蒲生町管内の分布調査

蒲生町の分布調査は昭和61年5月26日から同月30日まで実施した。

蒲生町は薩摩半島基部に位置し，東は姶良町に，北から西にかけて郡答院町・入来町に，南は吉田町に接している。

本町の地勢は，北部の漆地区の谷底平野・東南部の市街地から下久徳にかけての地域に広がる思川沖積地・南部の久床地区の丘陵地以外は急しゅんな山地である。

町内の原始・古代の遺跡は，縄文時代のもの3ケ所，弥生時代のもの4ケ所，時代不明のもの5ケ所の計12ケ所が知られているが，発掘調査のなされた遺跡はない。また歴史時代になると室町時代以降の寺院址や城館址等の史跡が多い。①

今回の分布調査では新たに12ケ所の遺跡を確認した。

1　仁加木遺跡

蒲生町大字漆字仁加木にあり，蒲生川の支流後郷川が枝状にはいり込む矢止岳南側山腹のゆるやかに傾斜する尾根の先端部に位置する。

採集した遺物は縄文式土器・成川式土器の破片で，いずれも図示するにいたらなかった。

2　大原遺跡

蒲生町大字漆字大原にある。さきに述べたように漆地区には谷底平野があるが，これに張り出してくる南面する舌状台地の先端部及びその台地下に広がる。この台地下は概に「地名表」に大原遺跡として記載してある。

採集した遺物は土師器の小破片と75の細石核である。75は溶結凝灰岩の分厚い剥片を素材としたもので，3本の細石刃剥離がみられる。

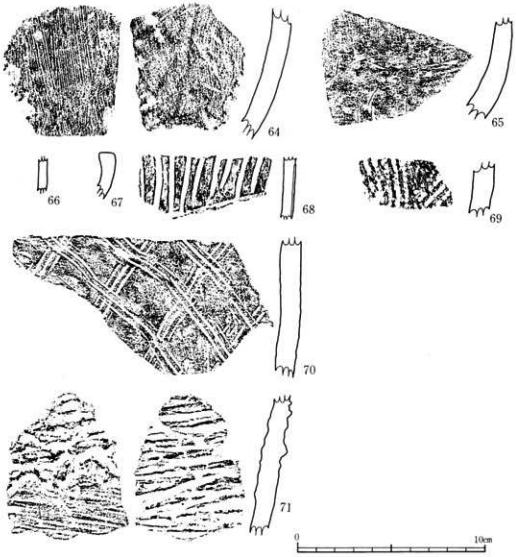
3　山口田遺跡

蒲生町大字米丸字山口田にある。後郷川左岸に南面して張り出してくる舌状台地（河岸段丘か？）の全域が遺跡で，現況は畑として利用されており，背後の山地が台地へ遷移する箇所に現在の集落がある。

採集した遺物は土師器の小破片である。

4　山口遺跡

蒲生町大字北字山口にある。蒲生川の上流（田平川という名称に変る）左岸の，谷が拡りはじめる沖積地にあり，現状は田として利用されている。すでに圃場整備が終了しており，田のあぜから土師器・成川式土器の破片を採集した。64・65ともに成川式土器の破片で，胎土に長石・石英・輝石・岩石片等を含み，表裏ともハケ目調整が見られる。



第6図　蒲生町管内遺跡の採集遺物（土器）

5　宮内遺跡

蒲生町大字上久徳字宮内他に広範囲にわたって遺物の散布が見られた。蒲生町市街地の北側背後にひろがる後郷川左岸の丘陵地で，現況は散村状の集落と畑で，その畑等から遺物を採集した。

採集した遺物は土師器・青磁の破片である。66は青磁片で，青灰色の釉がかかり，こまかな貫入が見られる。また図案全体はわからないが，４本の陰刻がみられる。

6　剣御前遺跡

蒲生町大字上久徳字剣御前他にひろがる遺跡である。蒲生川と後郷川の合流点右岸の低位段

丘のほぼ中央部にあり，浅い沢状地形を中心に拡がる。現況は田としての利用が大部分で，また県林業試験場の敷地全部も遺跡地に含まれる。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片とチャートの剥片である。67は土師器片で，埦もしくは坏の口縁部である。外側はヘラの横ナデ，内側はハケ目による整形で，いわゆる丹塗が施されている。

7　三池原遺跡

蒲生町大字下久徳字三池原他にひろがる。蒲生川と後郷川の合流点の下流左岸で，剣御前遺跡の対岸になる。蒲生川は後郷川を合した後大きく蛇行するが，その内側の氾濫原に自然堤防があり，その上に遺跡がある。現況は畑である。

採集した遺物は土師器の小破片で，いずれも図示しえなかった。

8　長縁遺跡

蒲生町大字下久徳字長縁にある。蒲生町の東南部，蒲生川の形成する沖積地の南側に剣御前遺跡の立地する低位段丘と同様の低位段丘があるが，この段丘は吉田町との境をなす山地からの小河川によって樹枝状に開析されており，そのような谷の出口に残された段丘面にこの遺跡は立地する。

採集した遺物は成川式土器の破片であるが，いずれも図示するにいたらなかった。

9　石峯遺跡

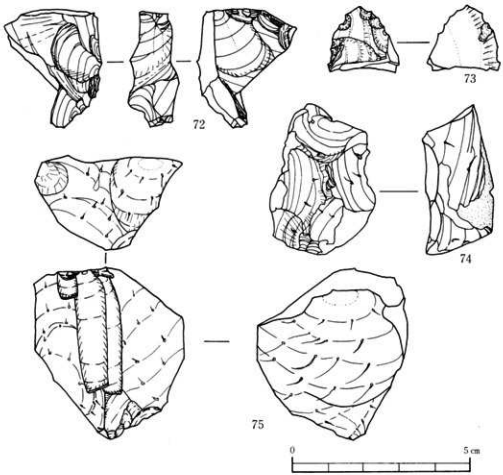
蒲生町大字久末字石峯にある。蒲生町の南部，蒲生城の西側には谷を挟んで丘陵地がひろがっており，この丘陵地と西方の山地との遷移点近くの小丘の麓に遺跡は立地する。現況は屋敷畑・樹園・畑地等である。

採集した遺物は縄文式土器・成川式土器及び土師器の破片と黒曜石の剥片であるが，いずれも図示するにいたらなかった。

10　高牧第1遺跡

蒲生町大字久末字高牧にある。蒲生町の南部，前郷川の左岸一帯は急峻な山地となっているが，この山地中に前郷川とほぼ平行して東流する蒲生川の一支流がある。この支流は高牧周辺で幅100～200mくらいの谷底平野を形成しており，この平地に南・北両方の山地から尾根が舌状に張り出してきている。遺跡はこのような舌状地の一つで，南から張り出してきた尾根の先端が平坦になったところに立地しており，平地との比高は約3m，河床との比高は約10mある。

採集した遺物は土師器・成川式土器及び縄文式土器の破片とチャート，タンパク石の石器である。このうち土器の前二者は小破片で図示しえなかったが，縄文式土器片と石器は，68・69 71と72・73に図示した。68は曽畑式土器と思われる破片で，胎土に石英・長石等を含み，厚さ



第7図　蒲生町管内遺跡の採集遺物（石器）

7mm，色調は淡黄褐色を呈し，良好な焼成である。施されている文様は，縦位及び横位の沈線で，後者は前者によって切られている。また，沈線の内部には細かな条線が走り棒状工具を想定しうる。69は石坂式土器の破片で，胎土に石英・長石・岩石片等を含み，厚さ10mm，色調は赤褐色を呈し，ややもろい焼成である。施された文様は，拓影に見るような方向の半截竹管による押引き文である。71は轟B式土器の破片で，胎土は石英・長石・岩石片等を含み，厚さ11mm，色調は黒褐色を呈し，良好な焼成である。文様帯は横方向の貝殻条痕の後ナデ調整が行われ，さらに幅8mmから6mの断面三角形の粘土ヒモが指頭で横位に貼付され，その直下に波形に同様な粘土ヒモが貼付されている。裏面には横位及び斜位のあらい条痕が見られる。72はチャートの剥片を素材とする楔形石器の残欠であろう。浅くフラットな剥離と小さなステップフレイキングによって縁辺が調整され，幅1cm長さ2cmほどの截断面がある。なお截断面には同方向へのヒビが2本見られる。(図中⁞で表現した）73はタンパク石の剥片で背面にいくつかと

腹面に１つの小剝離が見られる。

11　高牧第２遺跡

所在地及び立地については高牧第１遺跡と同じである。第２遺跡は第１遺跡より600mほど上流の谷底平野の始まるところに張り出した尾根上にある。なお，第１・第２遺跡ともに畑面がらの採集であり，現況は山林及び一部畑である。

第２遺跡の採集遺物は縄文式土器片である。70がそれで，塞之神Ｂ式土器と思われる。胎土に石英・長石等を含み，厚さ11mm，色調は赤褐色で，良好な焼成である。表面に３本１組とする沈線が斜格子に施されているが，これは右上・左下の沈線のあと左上・右下の沈線が施された結果である。裏面には横方向の浅く細かな条痕が見られる。

12　松生遺跡

蒲生町大字白男字松生にある。蒲生町の西端，前郷川と甲突川水系の分水嶺近くの，前郷川の開析する山地の中腹北向きの斜面が一部平坦面になるところに立地する。

採集した遺物は，成川式土器と土師器の小破片で図示するにいたらなかった。

第３表　蒲生町管内の遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	仁加木	蒲生町大字漆字仁加木	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
2	大原	＊　＊字大原	旧石器・歴史	細石核・土師器	
3	山口田	＊　大字米丸字山口田	歴史	土師器	
4	山口	＊　大字北字山口	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
5	宮内	＊　大字上久徳字宮内他	歴史	土師器・青磁	
6	剣御前	＊　＊　字剣御前他	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
7	三池原	＊　大字下久徳字三池原他	歴史	土師器	
8	長縁	＊　＊　字長縁	古墳	成川式土器	
9	石峯	＊　大字久末字石峰	縄文・古墳 歴史	縄文式土器・成川式土器 土師器・黒曜石剥片	
10	高牧第１	＊　＊字高牧	縄文・古墳 歴史	縄文式土器（石坂式・ 曽畑式・轟式）成川式 土器・土師器・石器	
11	高牧第２	＊　＊　＊	縄文	縄文式土器(塞之神式)	
12	松生	＊　大字白男字松生	古墳～歴史	成川式土器・土師器	

引用・参考文献

① 鹿児島県教育委員会「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書36
鹿児島県市町村別遺跡地名表」　1985年

第4節　吉田町管内の分布調査

吉田町の分布調査は，昭和61年6月2日から同月6日まで実施した。

吉田町は薩摩半島の北部に位置し，東及び南は鹿児島市に，西は郡山町に，北は蒲生町・姶良町に接している。ほぼ全域が山地で，これは北東部の山塊と南西部の山塊とに大別できる。これらの山地を思川とその支流群，及び楠木川とが開析しており，これらの河川のつくる谷底平野と大原周辺の台地とが，町内に見られる平地である。

町内の原始・古代の遺跡は，縄文時代の遺跡3と須恵器の蔵骨器が出土した平安時代の墳墓の計4つが知られている① このうち吉田南中学校敷地内の大原遺跡は昭和27年に河口貞徳氏によって発掘され，この遺跡出土の土器をもって早期の代表的型式である「吉田式」が設定されている② また九州縦貫自動車道関係で発掘調査が行れた遺跡が3ケ所あり，そのうち小山遺跡③では縄文早・前期の集石を多数検出し，また宮後遺跡④では縄文時代晩期のヒスイの丸玉を検出している。このように，吉田町内には縄文時代の良好な遺跡が多く，今回の分布調査では新たな遺跡の発見とともに周知の遺跡の拡がりの確認にも力点をおいて実施したが，新たに発見した遺跡は12ケ所にのぼったものの，周知の遺跡の拡がりは確認できなかった。なお，大原遺跡の所在する吉田南中学校に，大原遺跡の資料が所蔵されていないかと訪問したさい，同校所蔵の資料を借りうけ，実測・写真撮影を行った。ここに記して謝意を表したい。

1　永田遺跡

吉田町大字西佐多浦字永田に所在する。字都谷背後の山地から流れ出る思川の一支流は，北東に流れつつ提水流集落のあたりから谷底平野を形成しはじめるが，この提水流集落は，北から張り出してくる舌状台地上とその下に営まれており，遺跡はその集落内の台地末端上に位置している。現況は畑である。

採集した遺物は土師器の破片で，そのうちの1つを図示する。76がそれで，坏の底部と思われ，糸切りの痕を残している。

2　柿平遺跡

吉田町大字本名字柿平にある。吉田町の西端，郡山町との境を接する菖蒲谷から内原一帯はゆるやかな起伏の台地となっている。この台地は南北からの山地の鞍部であり，本名川水系と甲突川水系との分水界になっており，西へ流れれば甲突川水系へ，東へ流れれば本名川水系へとなるわけである。この遺跡は甲突川水系へと流れる谷の一支谷の谷頭近くに位置している。現況は畑として利用されている。

採集した遺物は，縄文式土器・成川式土器の破片であるがいずれも小さく図化しえなかった。

3　風穴遺跡

吉田町大字本名字風穴等にひろがる遺跡である。先に述べた柿平遺跡と同じ台地上に位置し

風穴遺跡とは甲突川水系の浅い谷の谷頭を隔て約400m東へ離れている。この遺跡は甲突川水系の谷頭と本名川水系との谷頭の両者にまたがりかつそれらを包み込むような形で台地中央部に拡がっている。この2つの遺跡は連続していることをも想定し，二者の間をたんねんに調査したが，遺物の散布に断絶が見られたので，ここでは二者に分割して報告するが，この空白域を遺跡ではないと断定はできない。現況は畑，畜舎・鶏舎の敷地として利用されている。

採集した遺物は，縄文式土器・成川式土器・土師器の破片と縄文時代の所産と思われる石器とである。土器片はいずれも小さく図化できなかったが，石器のうち石鏃があるのでそれを図示する。86がそれで，黒曜石の剥片を素材とするもので，わりと雑な剥離で，平行・平坦な剥離ではなく縁辺の一部は小さなステップフレイキングになったり，脚部は小さく傾斜角の大きな剥離になっている。

4　蘭牟田原遺跡

吉田町大字本名字蘭牟田原にある。郡山町・鹿児島市と吉田町の三方界となる左富嶽の東側は本名川の支流群が開析し幾つかの谷を刻み尾根をつくっているが，その尾根上が平坦地となっているところが少なくない。この遺跡もそのような尾根上の平坦地に立地する。また，この尾根の北側斜面は中途でゆるやかな傾斜に変るが，この緩傾斜面上に「地名表」①の16－3柚原遺跡がある。蘭牟田原遺跡の現況は畑である。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示しえなかった。

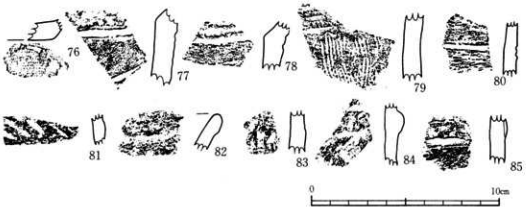
5　向得原遺跡

吉田町大字本名字向得原にある。吉田町の南部，吉水地区から大原・飯山地区一帯はゆるやかな起伏の台地となっており，これを本名川水系・楢木川水系の支流群が開析し浅い谷が随所に見られる。先に述べた大原遺跡（「地名表」16－1）①や向下堂遺跡（同16－2）①もこの台地上にある。この向得原遺跡はこの台地の西端，飯山地区にあり，楢木川水系の谷地にはさまれた台地のほぼ中央にあり，現況は畑である。

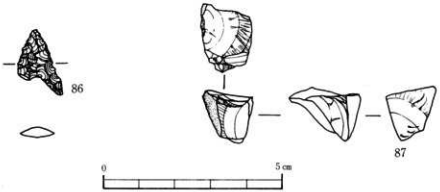
採集した遺物は縄文式土器・成川式土器・土師器の破片と黒曜石の破片であるが，いずれも図示しうるほどの大きさではない。

6　大塚遺跡

吉田町大字本名字大塚にある。前述の大原遺跡・向下堂遺跡と同じ台地上にあり，この二者を直線で結ぶとほぼこの線上にあって向下堂遺跡に隣接する。「地名表」では向下堂遺跡が点で記載してあるが，あるいは大塚遺跡は向下堂遺跡と一つになるやも知れない。現況は畑であるが，周辺は宅地としての開発が進んでおり，かつそれがいわゆる「ミニ開発」といわれるところのごく小規模な宅地造成であるので，文化財を保護するための具体的な対策が必要である。



第８図　吉田町管内遺跡の採集遺物（土器）



第９図　吉田町管内遺跡の採集遺物（石器）

７　前畑遺跡

吉田町大字宮ノ浦字前畑にある。５・６の遺跡と同じ台地上，吉水地区にある。先に述べたようにこの台地は本名川・楢木川両水系によって開析されつつある。この遺跡の立地するところは両水系の谷頭が近接するところで，本名川水系の谷は侵食が強く深い谷となっており，楢木川水系のほうは侵食が弱くゆるやかな傾斜になっており，この緩斜面上に立地している。なお，この遺跡地に九州縦貫道が走っており，縦貫道の西側に遺物の散布が認められ，かつ畑地として利用されているもののシラスが露出していることから，包含層の遺存は疑問である。

採集した遺物は，成川式土器・土師器の破片及び石器であるが，前者はいずれも小さく図示しえなかったが，後者は87に示した。これは，漆黒色の黒曜石の亜角礫を素材とするもので，細石核と思われるが，調整打面は残るものの，作業面再生が行なわれたのか，細石刃剥離痕は見られない。

８　北平野遺跡

吉田町大字宮ノ浦字北平野にある。姶良町と吉田町の境をなす山塊は，青少年研修センター

の周辺では南面する緩斜面を持つが，遺跡はこの緩斜面上にある。土層の遺存は良好で，薩摩パミス・アカホヤ層ともにほぼ水平に堆積するのが明瞭に視認しうる。

採集した遺物は縄文式土器・成川式土器・土師器の破片で，77～84に示した。77は塞之神式土器の破片と思われる。胎土に石英・長石等を含み，厚さ11mm，色調は淡褐色を呈し良好な焼成である。横位・斜位の沈線と刺突文とがある。78も塞之神式土器の破片と思われる。胎土等は77に同じで，横位の２条の沈線がある。79は手向山式土器の破片であろうか。胎土は石英・長石・岩石片等を含み厚さ９mm，色調は淡褐色で焼成は良好である。縦位の撚糸文と横位の沈線が施されている。80も塞之神式土器の破片であろう。胎土は石英・長石・岩石片等を含み，厚さ７mm，色調は淡赤褐色，焼成は良好である。縦方向に回転されたＲの無節縄文は，沈線内に施されている。81は阿高式土器の破片であろう。胎土は，石英・長石・雲母・滑石を含み，色調は赤褐色，厚さ７mm，良好な焼成である。棒状工具によるものと思われる沈線が斜位に施されている。82・84は成川式土器の破片であろうか。83も塞之神式土器の破片のように思われる。

９　中原遺跡

吉田町大字宮ノ浦字中原他にひろがる。５～７の遺跡と同じ台地にある。この台地の東側を精木川の支流が開析しやや広い谷をつくっており，その谷を７で述べた九州縦貫道が走っているわけであるが，遺跡はこの谷の右岸台地上ほぼ全域に広がる。ゆるやかな起伏の中に何本かの浅い谷が西へ走っており，現在畑として利用されている。

採集された遺物は，成川式土器・土師器の破片と黒曜石の剥片であるが，いずれも図示しうる大きさではなかった。

10　山ノ上遺跡

吉田町大字宮ノ浦字山ノ上・小舞床にある。吉田町の南部，鹿児島市との境になる谷の左岸に牟礼谷集落の背後で台地になっており，現在緑化センターがあるがその東南方500m位のところにある。

採集した遺物は成川式土器の破片で，そのうちの１つを85に示した。胎土は石英・長石・軽石片を含み，厚さ８mm，色調は赤褐色を呈する。幅11mmの突帯が横走しているが，耕作時の歪みの為であろうか，突帯は上部が削り取られている。

11　崎山遺跡、12　落ノ上遺跡

この２つの遺跡は立地等同一であるので，併せて記述する。

吉田町大字宮ノ浦字崎山・落ノ上に各々所在している。吉田町の東南部牟礼岡の牧集落の西に現在三井ニュータウンが建設されているが，遺跡は牧集落とニュータウンの間のゆるやかな起伏の畑地にある。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示しえなかった。

なお，吉田南中学校収蔵の資料中には「宮ノ浦牧採集」と墨書されたものが多かったが，この両遺跡での採集でなかろうかと思われる。

※　吉田町立吉田南中学校収蔵資料

同校を訪問したのは，同校敷地に吉田式土器の標式遺跡である大原遺跡があり，昭和27・28年に発掘された後に採集された資料があることを期待してのことであった。大原遺跡の採集品は所蔵されていなかったが，「吉田村牧出土」とか「中原出土」の注記のある土器・石斧が所蔵されていたので，ここに紹介する。図10・11がそれである。

116・118は石坂式，117・119は吉田式，118は石坂式，120は前平式，121は塞之神式，122・123は指宿式，124は阿高式と思われる。125～127・130～132・134～135は成川式，128・129・136・137は土師器，133は須恵器である。138～144は磨製石斧で，縄文～弥生時代の遺物であろうか。145は刃部のみが研磨されており，いつの時代の所産か判断に苦しむ。

第4表　吉田町管内の遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	永田	吉田町大字西佐多浦字永田	歴史	土師器	
2	柿平	＊　大字本名字柿平	縄文・古墳	縄文式土器，成川式土器	
3	風穴	＊　＊字風穴	縄文・古墳 歴史	縄文・成川式土器，土師器，石鏃 黒曜石剥片	
4	薗牟田原	＊　＊字薗牟田原	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
5	向得原	＊　＊字向得原	縄文～歴史	縄文式・成川式土器，土師器，黒曜石	
6	大塚	＊　＊字大塚	古墳	成川式土器	
7	前畑	＊　大字宮之浦字前畑	古墳～歴史	縄文式土器，成川式土器	
8	北平野	＊　＊字北平野	縄文・古墳	成川式土器，土師器，黒曜石剥片	
9	中原	＊　＊字中原他	古墳～歴史	成川式土器	黒
10	山ノ上	＊　＊字山ノ上他	古墳	成川式土器	
11	崎山	＊　＊字崎山	古墳	成川式土器	
12	落ノ上	＊　＊字落ノ上	古墳～歴史	成川式土器，土師器	

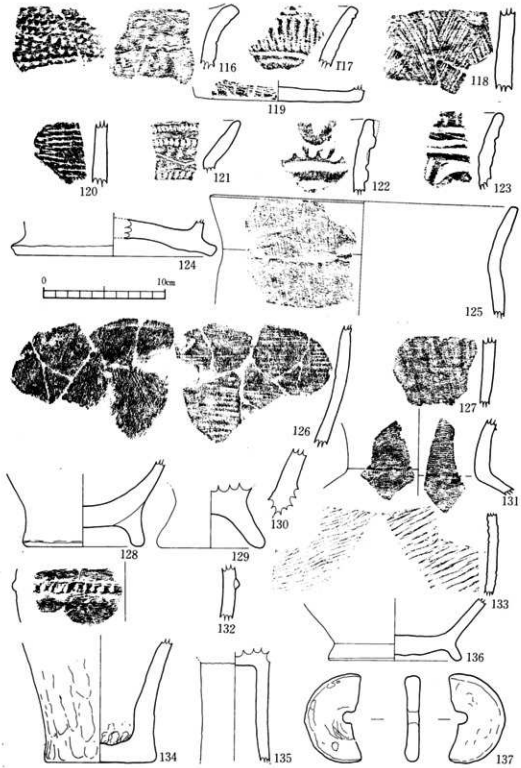
引用・参考文献

① 鹿児島県教育委員会「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書㊱
鹿児島県市町村別遺跡地名表」1985年

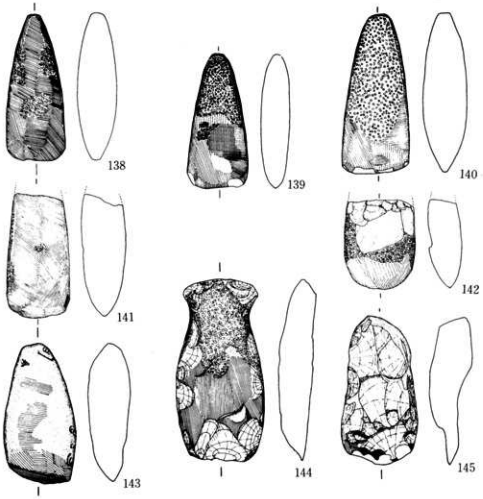
② 河口貞徳「南九州出土の条痕土器―吉田村及び知覇町遺跡―」石器時代第１号　1955年

③ 鹿児島県教育委員会「小山遺跡・谷ノ口遺跡・宮後遺跡・上城城址・
九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅵ」1982年

④ ③に同じ



第10図　吉田町立吉田南中学校収蔵資料（土器）



第11図　吉田町立吉田南中学校収蔵資料（石器）

第5節　鹿児島市管内の分布調査

例言で述べたように鹿児島市内の分布調査は市北東部の吉野台地及び丸岡地区に限って行った。

上記の地域の分布調査は昭和61年6月9日から同月13日まで実施した。

この地域は，入戸火砕流が厚く堆積してできた台地で，楢木川(稲荷川)，長井田川(甲突川)，に開析されている。吉野台地は楢木川水系によって開析されているが，一般に起伏はゆるやかで谷も浅く広い。丸岡地区の台地は長井田川水系によって開析されており，吉野台地同様な状態である。ただ，長井田川水系は丸岡より下流になると浸食が激しく深い谷を形成し，台地は残存することなくやや幅の広い尾根を残すのみである。

この地域の原始・古代の遺跡は「鹿児島県市町村別地名表」によれば，先土器時代の遺跡2，縄文時代の遺跡4，古墳時代の遺跡1が知られている。このうち，九州縦貫自動車道の建設に伴い発掘調査された加栗山遺跡[5]・加治園遺跡[3]や，大正3年マンローによって鹿児島県最初の発掘が行われた石郷遺跡などが著名である。

今回の調査では新たに14ヶ所の遺跡を発見し，またいわゆる点から面へと拡がりを確認した遺跡が3ヶ所ある。

1　横畑遺跡

鹿児島市岡ノ原町丸岡にある。この遺跡の立地する台地は，さきに第4節吉田町の中で述べた大原台地と同一面であり，大原台地とは楢木川の支流で開析された谷によって隔てられている。この台地面は長井田川の支流群によって浅く広く谷が刻まれており，ゆるやかに起伏しながら全体的には南への傾斜を持っている。遺跡はこのような浅く広い谷の谷頭部に立地している。現況は畑である。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示するにはいたらなかった。

2　堀添遺跡

鹿児島市岡ノ原町丸岡字堀添にある。横畑遺跡から南西へ約300m 離れた別の谷の谷頭に位置する。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示するにいたらなかった。

3　中迫遺跡

鹿児島市岡ノ原町丸岡字中迫にある。横畑遺跡から南東へ約400m 離れた別の谷の谷頭に位置する。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示するにいたらなか

った。

4　池畑遺跡

鹿児島市岡ノ原町丸岡字池畑にある。中迫遺跡から東へ約400m 離れており，長井田川水系の谷頭と槽木川水系の谷頭にまたがってみろがる。

採集した遺物は土師器の破片で，いずれも小さく図示するにいたらなかった。

5　拾間原遺跡

鹿児島市川上町川上字拾間原にある。吉野台地はその西縁は槽木川の支流によってやや深い谷がはいり込んでおり，舌状台地が何本か見られる。この遺跡は堀之内集落の東から下花棚の南にかけてのこのような舌状台地ほぼ全域にひろがる。

採集した遺物は，成川式土器・土師器等の破片である。88は成川式土器の破片と思われ，貼付突帯が施されている。89は土師器の坏の底部である。90は土製紡錘車の破片と思われる。胎土に石英・長石・岩石片等の粒子を含み，中心部の厚さ17mm，端部の厚さ8mmで色調は茶褐色を呈する。形状は表面中心部がつまみ状に盛り上るいわゆる「つまみ形」で，側面と裏面に1条の沈線が巡っており，推定径は54mmである。

6　中武遺跡

鹿児島市吉野町東菖蒲谷字中武にある。吉野台地北縁は槽木川の支流牟礼谷によって牟礼岡と隔てられているが，一方台地東北隅は寺山からのゆるやかな傾斜が台地面へと続いている。この遺跡は，牟礼谷の谷頭右岸，寺山からの傾斜面が台地面へと遷移する箇所に位置する。

採集遺物は成川式土器片であるが，いずれも小さく図示するにはいたらなかった。

7　下武遺跡

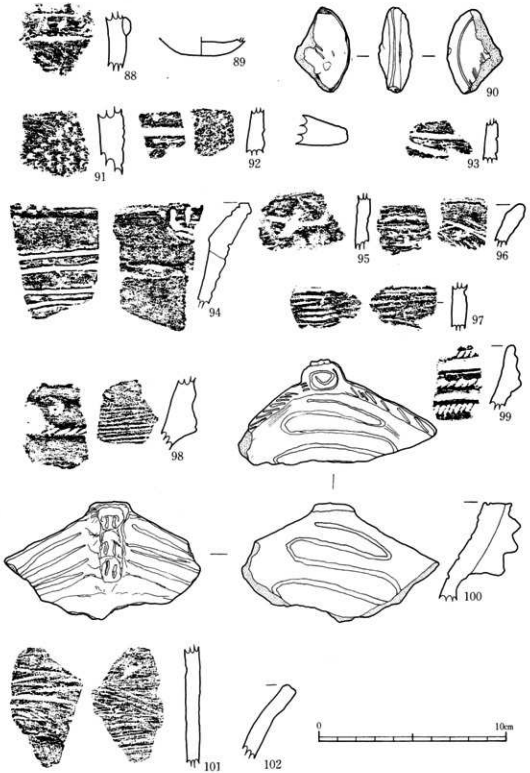
鹿児島市吉野町東菖蒲谷字下武にある。中武遺跡から低い尾根状地を南西へ約700m 離れた箇所に立地する。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるがいずれも小さく図示するにはいたらなかった。

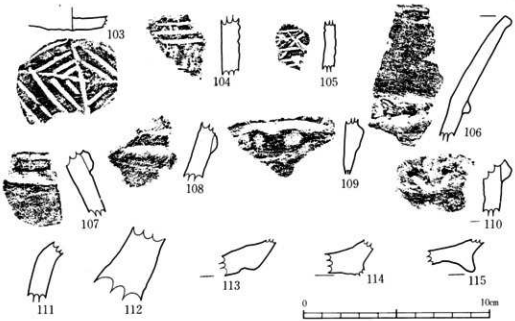
8　永山遺跡

鹿児島市吉野町東菖蒲谷字永山にある。寺山からの緩い斜面上に位置し，中武遺跡とは東南へ約600m 離れている。

採集した遺物は成川式土器の破片であるが，いずれも小さく図示するにいたらなかった。



第12図　鹿児島市管内遺跡の採集遺物（土器１）



第13図　鹿児島市管内遺跡の採集遺物（土器２）

9　宮ノ後遺跡

鹿児島市吉野町上原字宮ノ後にある。吉野台地東縁は鹿児島湾へ急激に落ち込む姶良カルデラの火口壁となっている。この火口壁は姶良方面から磯方面へかけて傾斜しており，さきに寺山からの傾斜面と述べたのもこの傾斜である。この火口壁上には冒頭記した石郷遺跡の他成川期の住居址が発見された七社遺跡等著名な遺跡が多い。今回の分布調査でも新たに５つの遺跡を発見した。宮ノ後遺跡もその内の１つである。

採集した遺物は成川式土器の破片であるが，いずれも小さく図示できなかった。

10　仁田岡遺跡

鹿児島市吉野町中別府字仁田岡にある。吉野台地のやや内部の浅く広い谷にはさまれた尾根上に立地する。

採集した遺跡は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示するにいたらなかった。

11　横枕遺跡

鹿児島市川上町野呂迫字横枕にある。吉野台地西縁は５拾間原遺跡の項で述べたような地勢であるが，この横枕遺跡も楠木川支流の谷頭に位置する。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示するにいたらなかった。

12　石郷遺跡

鹿児島市吉野町上ノ原にある。9宮ノ後遺跡の項で述べた火口壁上につらなる遺跡の1つで宮ノ後遺跡から南へ約1.4km離れている。

さきに述べたように，この遺跡は大正3年マンローによって発掘が行われ，鹿児島県の考古学研究の端緒となった遺跡である。今回の分布調査では，マンローの発掘地点よりもさらに東西・南へと遺跡が拡がることが確認できた。なお，後述する七社遺跡の報文中に，出口氏はマンローの発掘地点より西のほうをも遺跡として指摘していることを付記する。

採集した遺物は縄文式土器の破片と黒曜石の剥片で，うち11点を91～102に図示する。91は石坂式，92～96は指宿式，97は条痕文土器，98～100は市来式，101は轟式と思われる。なお，さきに述べた出口氏の指摘では弥生時代の遺跡ともなっているが，今回の調査では弥生式土器の破片であると断言しうる資料は見い出しえなかったが，102はそれであるかもしれない。

13　下石子遺跡

鹿児島市吉野町上ノ原にある。この遺跡も火口壁上にあり，石郷遺跡から南へ約600m 離れている。現況はゴルフ場及び通路である。

採集した遺物は縄文式土器・成川式土器の破片と黒曜石の剥片である。このうち，縄文式土器の3点を図示する。103は曽畑式土器の破片である。104・105は条痕文土器である。

14　七社遺跡

鹿児島市吉野町七社字上郷田にある。立地は石郷遺跡等と同じく火口壁上であり，県立吉野公園の西約500m である。現況は屋敷畑及び宅地である。

この遺跡は昭和48年に出口氏[4]によって発掘されており，成川期の住居址が検出されている。今回の調査で採集した遺物は成川式土器・土師器の破片である。うち10点を106～115に図示する。106～113は成川式土器の壺・甕・高坏等の破片である。113は丹塗精製の高坏である。114・115は土師器の椀もしくは皿の底部であろう。

15　東遺跡

鹿児島市吉野町七社字東にある。七社遺跡に近接し，東へ約300m の距離で，県立吉野公園の西側，道路を隔てた一帯の畑である。

なお，この遺跡は14の七社遺跡とは別地点であるが，従来この地点をも「七社遺跡」と呼称している。「地名表」の1-19“七社遺跡”縄(晩)黒川式の出土地として記載してあるのが，この遺跡であろうし，また，出口氏の報文中『筆者は七社遺跡についてはすでに鹿児島県遺跡地名表において晩期黒川式土器出土地として知っており…』とあるのもまたこの遺跡のようである。14の七社遺跡は「地名表」1-27七社遺跡であり，かつ出口氏の発掘地点である。つまり「七社遺跡」という呼称は，別地点の二遺跡を合せて記されているのである。そこで，本報告において

はこの混乱をさけるため，別に東遺跡という名称で分けた。

採集した遺物は縄文式土器・成川式土器の破片及び黒曜石の剥片であるが，小さくて図示するにいたらなかった。

16　丸防遺跡

鹿児島市吉野町七社字丸防にある。石郷遺跡等と同じく火口壁上に立地しており，15の東遺の東南300m ほどのところである。

採集した遺物は成川式土器の破片であったが，いずれも小さくて図示するにはいたらなかった。

17　鳥堀遺跡

鹿児島市吉野町七社字鳥堀にある。吉野台地は磯の磯山公園の位置する平坦な尾根を南端とするが，この遺跡はこの尾根の平坦面，磯山公園の入口近くに立地する。

採集した遺物は成川式土器・土師器の破片であるが，いずれも小さく図示しえなかった。

第5表　鹿児島市北東部の遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	横畑	鹿児島市岡ノ原町丸岡	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
2	堀添	〃　〃　〃	古墳	成川式土器	
3	中迫	〃　〃　〃	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
4	池畑	〃　〃　〃	歴史	土師器	
5	松間原	〃　川上町川上	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
6	中武	〃　吉野町東真蘭谷	古墳	成川式土器	
7	下武	〃　〃　〃	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
8	永山	〃　〃　〃	古墳	成川式土器	
9	宮ノ後	〃　〃　上原	古墳	成川式土器	
10	仁田岡	〃　〃　中別府	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
11	横枕	〃　川上町野呂迫	古墳～歴史	成川式土器，土師器	
12	石郷	〃　吉野町上ノ原	縄文～弥生(?)	縄文式土器，弥生式土器(?)，黒曜石剥片	「地名表」1－12
13	下石子	〃　〃　〃	縄文・古墳	縄文式土器，成川式土器，黒曜石剥石	
14	七社	〃　〃　七社	古墳～歴史	成川式土器，土師器	「地名表」1－27
15	東	〃　〃　〃	縄文，古墳～歴史	縄文式土器，成川式土器，黒曜石剥片	「地名表」1－19「七社」
16	丸防	〃　〃　〃	古墳	成川式土器	
17	鳥堀	〃　〃　〃	古墳～歴史	成川式土器，土師器	

引用・参考文献

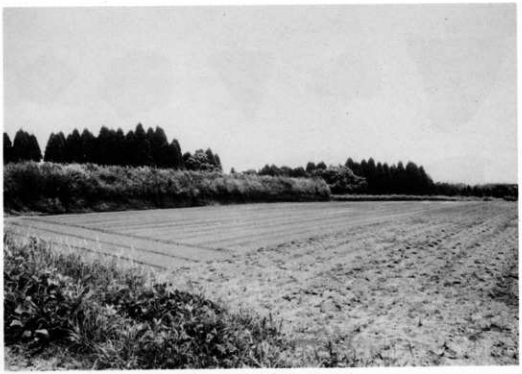
① 鹿児島県教育委員会「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書36 鹿児島県市町村別遺跡地名表」1985年

② 鹿児島県教育委員会「加栗山遺跡・神ノ木山遺跡―九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅴ」1981年

③ 鹿児島県教育委員会「加治屋園遺跡・木の迫遺跡―九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅵ」1981年

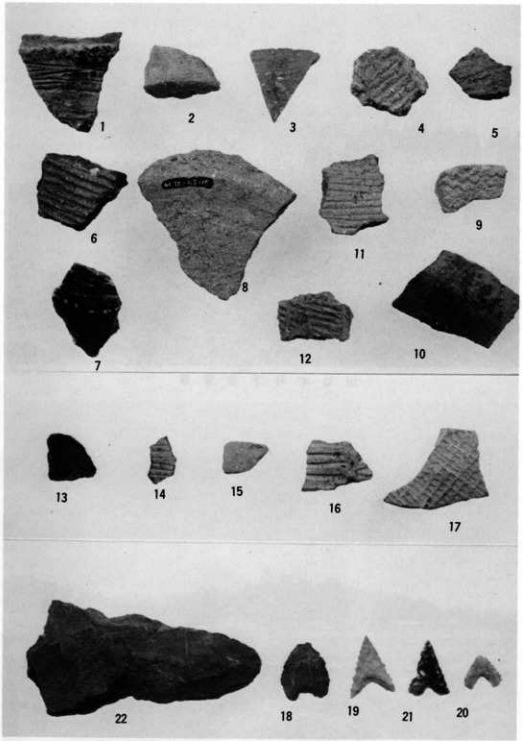
④ 出口浩「吉野町七社遺跡」鹿児島考古第8号　1973年

図　　版



加治木町下市来原

加治木町楠原遺跡



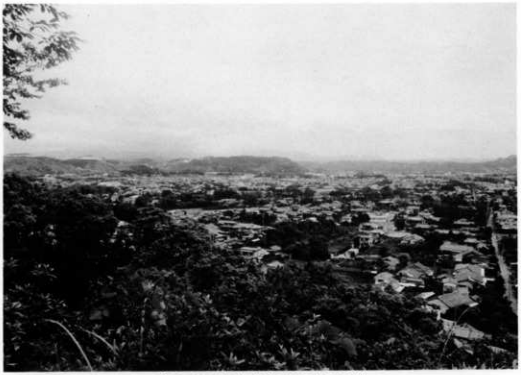
加治木町管内の出土遺物

始良町城ヶ崎遺跡

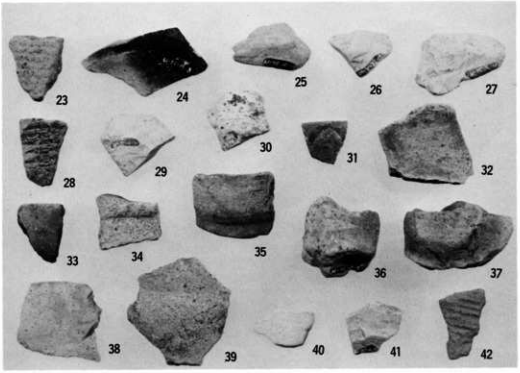
始良町春花遺跡

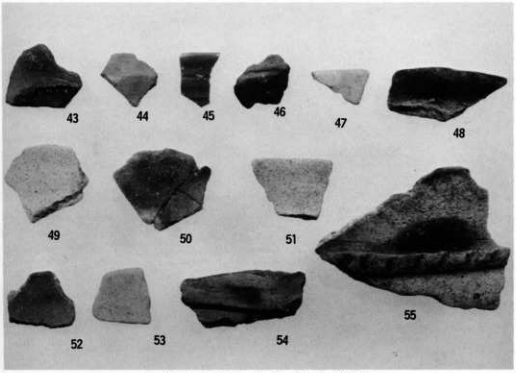
図版4

始良町川畑遺跡他

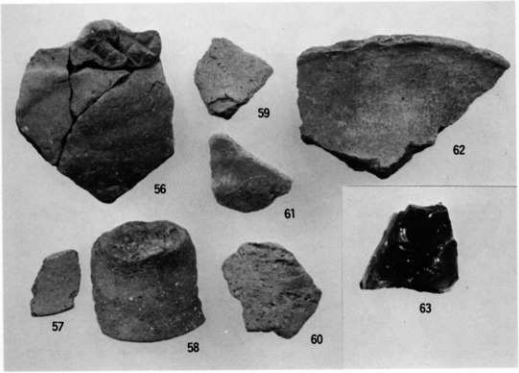


始良町平松原遺跡（中央丘陵は建昌城跡）


23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42


43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55

始良町管内の出土遺物



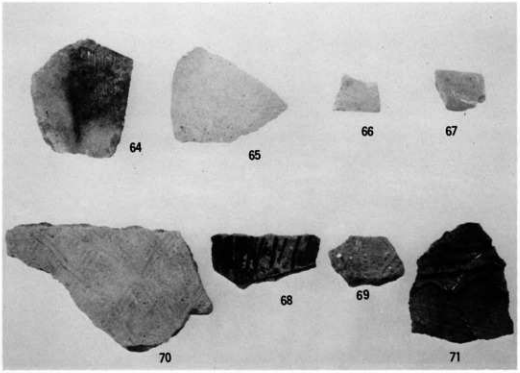
始良町管内の採集遺物(2)

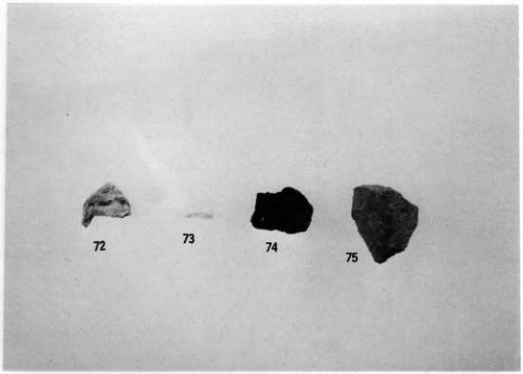
蒲生町宮内遺跡

蒲生町剣御前遺跡・三池原遺跡

蒲生町高牧第1遺跡

図版8



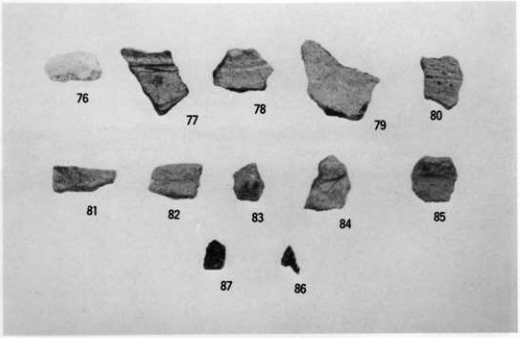


蒲生町管内の採集遺物

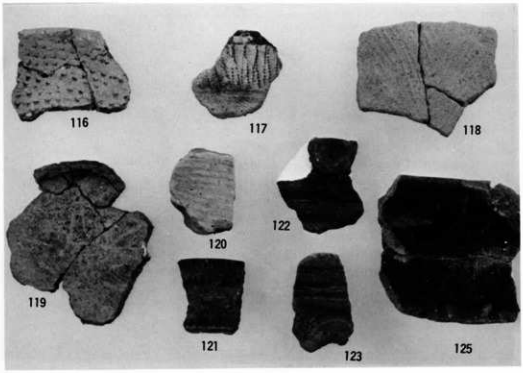
吉田町北平野遺跡

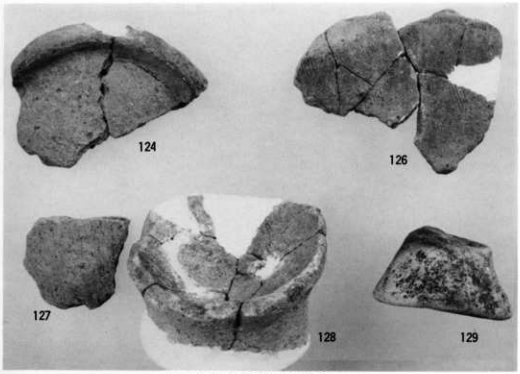
吉田町中原遺跡

吉田町崎山遺跡・落ノ上遺跡



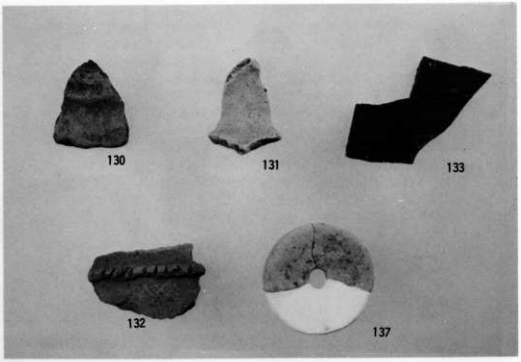
吉田町管内の採集遺物(1)



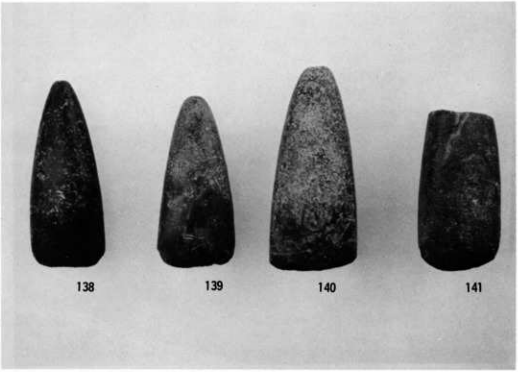


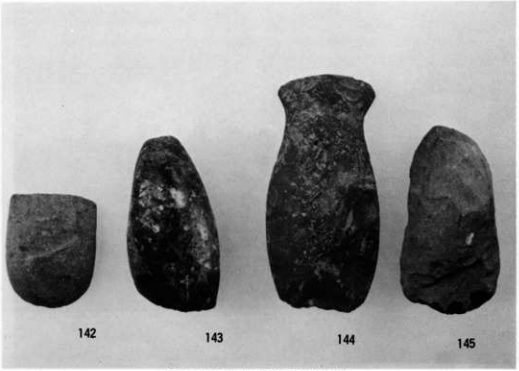
吉田南中学校収蔵の遺物(1)

図版12



吉田南中学校収蔵の遺物(2)



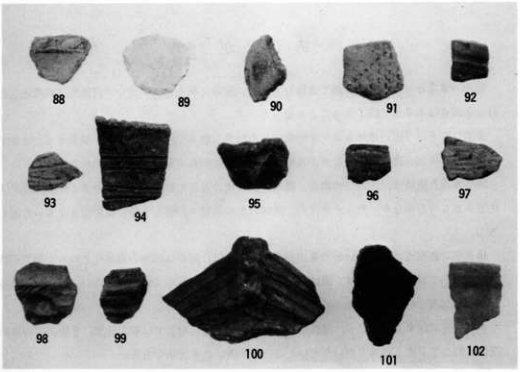


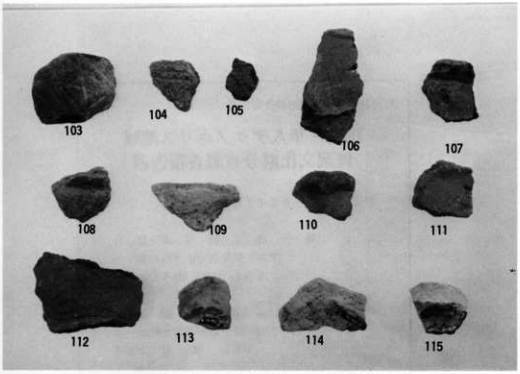
吉田南中学校収蔵の遺物(3)

図版14

鹿児島市拾間原遺跡

鹿児島市石郷遺跡





鹿児島市管内遺跡の採集遺物

あ と が き

昭和59年度から３ケ年の計画で実施してきた，国分・隼人テクノポリス計画地区の埋蔵文化財分布調査は本年度で終了することとなった。

２市11町という広い地域を３ケ年間実施した結果，数多くの遺跡を確認・発見することができた。又，周知の遺跡のなかで点から面への遺跡の広がりを確認できたものもあった。

採集された遺物は，畑地での場合，農業の機械化の普及の影響などにより多くが小破片で図化できるものが少なかった。そのため，遺跡のもつ情報・内容を十分に報告できなかった面もある。

地表面の観察だけで行ういわゆる表面分布調査では，近年は畑地の森林化といった調査不能地が増加していることもあり，遺跡の正確な情報把握という点では十分とはいえない面もあるが，基本調査という面ではある程度の成果を得ることができた。

本事業を実施するにあたり，関係市町村の教育委員会に対しては管内地図，字絵図等の資料提供に関して多大な御協力をいただいたことに感謝いたす次第である。

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書（40）

国分・隼人テクノポリス地域
埋蔵文化財分布調査報告書

発行日　１９８７年３月

発　行　鹿児島県教育委員会
〒892 鹿児島市山下町14番50号
ＴＥＬ（0992）㉖８１１１㈹

印　刷　かわち印刷有限会社
〒892 鹿児島市下竜尾町26－１
ＴＥＬ（0992）㊼４１２３